

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの英語教育実践」	3年 外国語活動（11月） Let's Try!1 Unit 6 第4時/4時間扱
① 外国語活動の授業づくりの工夫（中学年）	佐賀大学教育学部附属小学校3年担任 牛尾 美穂

## アルファベット文字となかよし 友達となかよし

本単元は、アルファベットの文字を題材とする初めての単元であり、大文字とその読み方に慣れ親しむことが目標である。文字認識に関しては個人差が大きいことが予想されるので、児童が文字に親しみ、興味・関心が高まるよう、段階的に多様な活動を経験させた。単元づくりに当たっては、児童が実際のコミュニケーション場面において言語材料を活用し、相手に配慮しながらコミュニケーションを図る中で、身近な友達のことを聞いて新しい発見をし、他者への気付きをもつ楽しさを感じることができるようになりたいという担任の思いを反映させた。

### 1 段階的で多様な活動

- (1) 身の回りのアルファベット文字に出会う、気付く
- (2) アルファベットソングを歌う
- (3) ポインティングゲーム
- (4) ビンゴゲーム
- (5) パズルゲーム
- (6) アルファベット文字の仲間分け
- (7) アルファベット文字クイズ  
(Hi, friends! Plus 活用)
- (8) モールを使ってアルファベット文字作り

児童の振り返りより

- ・町の中にもいろいろアルファベットがあるんだなあ。
- ・ぼくの好きな飛行機やお店などにアルファベットが使われていることが分かりました。

聞く活動→聞いて反応する活動→声に出す活動のように段階を踏んでアルファベット文字の音声に慣れ親しませました。

児童は文字の形だけでなく、サッカーのポジションやローマ字で使うアルファベット文字など、それぞれの知識や経験からアルファベット文字の仲間分けをしていました。



モールで文字作り。自然と体でアルファベットの大きな文字を表現してみせる児童の姿も見られました。

### 2 他者への気付きをもつ楽しさを感じるコミュニケーション活動

自分を紹介するミニポスターを作って紹介するという単元のゴールを設定した。単元の終末には、新出の言語材料であるアルファベット文字と既習の言語材料“What ~ do you like?” “I like ~.”を用いて、自分のイニシャルと好きなものを伝え合うコミュニケーション活動を行った。クラスの中に同じイニシャルの児童が複数名在籍していることを使って、イニシャルからその児童を予想してみる活動を行った。イニシャルだけでは特定できないことから、既習の英語表現を使ってイニシャル以外の情報を確かめていった。友達のことを考えながらやり取りをすることができ、その友達への理解も深まったと考える。



〇さんかうイヌがすきなんておもいもほせんでした。あうさぎがすきもかわいいしなと思ひました。

今日友だちに「イニシャルが好きなものをたずねる」友だちのことがよく矢口れ友だちもよくなふなれたかなと思ひました。

#### 指導助言・アドバイスコーナー

新学習指導要領における「知識及び技能」に係る目標では、中学年でアルファベットの文字に慣れ親しみ、高学年で読むこと・書くことに慣れ親しんだうえで、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けることが求められます。だからといって、中学年で機械的に文字に触れ、慣れ親しむ活動では、子供達の文字への興味・関心は高まるどころか、高学年の「読むこと」「書くこと」への期待感が失われることでしょう。そこで、本実践のように、まずは身の回りからアルファベットの文字を探し、身の回りにアルファベットも文字がいかにも多く使われているかに気付かせたうえで、単元終末に自己紹介ミニポスターを作るためになど、言語活動を行う目的や場面、状況の設定を明確にして、子供達がアルファベットの文字についてやり取りをしながら、アルファベットの文字に慣れ親しむようにすることが大切です。

（文部科学省 視学官 直山 木綿子）